

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 溪仁会	代表者	谷内 好	法人・ 事業所 の特徴	法人内で様々な介護保険事業を展開しており、情報の共有・連携をすることが出来ます。「わが家のように、いきいき」という施設理念のもと、ご利用者様1人1人が日々充実した日常生活を過ごすことが出来るように、季節に合わせた行事や外出行事を企画・提供をしています。
事業所名	菊水こまちの郷	管理者	近藤 学		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	1人	3人	0人	5人	1人	0人	4人	0人	14人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	職員全員が共通認識を持って根拠に基づいたケアが出来る体制作りをしていく。	夕のミーティングを実施することで以前より情報の共有がスムーズになっているが、根拠への理解や情報量に個人差があるためチームとして一定の水準まで高めていく取組みが必要である。	業務が大変な中、ミーティングの時間を作り苦労されている事と思います。 職員の皆さんも色々な工夫をされていることが分かりました。	チームとして根拠に基づいたケアが出来るように職員指導に力を入れていく。
B. 事業所のしつらえ・環境	事業所内の整理整頓や親しみやすい環境作りを継続していく。	工作した作品の掲示や職員も接遇を意識した関わりを行うことで親しみやすい環境作りに努めている。収納スペースがなく散らかりやすい和室は意識して整理出来ているが、日勤リーダーの座席は継続して対応をしていく必要がある。	ロビーにしか入っていないので現在の実際の状況については確認することが出来ません。外部評価の項目を立てるのでしたら見学の機会を設けて頂ければと思います。 玄関のインターホンで、すぐ対応して開錠してくれます。	事業所内の整理整頓の継続とご利用者にとって居心地の良い空間作りを意識した取組みをしていく。
C. 事業所と地域のかかわり	感染状況を考慮しながら出来る範囲で地域行事に参加をする。また、地域貢献を通して地域との関わりを深めていく。	感染症の水際対策により、職員の欠員が慢性的に続いている状況であり、地域行事への参加や地域貢献活動をあまり行うことが出来なかった。今年度は実習生の受け入れをしている。また、近隣の地域住民が来所された時には介護保険の手続き方法の説明をしている。	感染症がやっとインフルエンザ等と同じ扱いとなった事もあり、これから地域との関わりが増えてくるのかと思います。 地域行事に参加して楽しんで貰いたいですが、感染症のリスクがあり難しいですね。いつも利用者第一に考えてくださりありがとうございます。	事業所近隣でイベントがある際は参加をしていく。また、地域貢献活動を模索して対応していく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	新型コロナウイルスのリスクを最小限に抑えた形で活動参加をしていく。	外出行事を企画して実施することが出来なかった。ご利用者が近隣の薬局で買い物をしたいというご意向があり対応をしている。	これから活動が再開する事と思います。 コロナウイルスの為、地域との交流は難しかったと思います。	感染対策を継続しながら地域のイベントや各関係機関への交流会に参加をしていく。

E. 運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議を通して地域の方々と情報の共有を図ることで互いの理解を深めていく。	今年度から会議体での運営推進会議を段階的に行っている。感染状況によっては、書面開催しており、その際には送付資料に特記事項を記載して報告している。	これから活動が再開すると思います。しばらく感染症のことで集まることが難しかったですが、またこのような機会が出来て良かったと思います。	運営推進会議を通して地域の状況の把握に努める。
F. 事業所の防災・災害対策	地域で行われている防災に対する取り組みを把握する。	上白石小学校の防災教室に参加をしている。菊水上町地区のハザードマップを確認しており、水害や火災などを想定した避難訓練の実施や BCP 資料の作成をしている。	コロナ前の防災計画が地域と確認出来ると良いと思う。コロナ前は事業所の防災訓練に参加していただきました。災害時の対応について大変信頼をしています。	感染症発生時の対応について職員個々の理解が深まる取り組みをしていく。